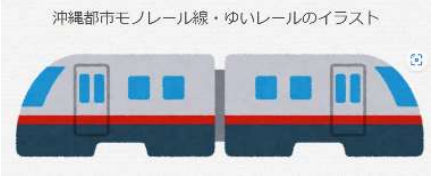
校長室だより

松江東高等学校

第22号

令和６年１月９日

○「ゆいまーる」



校長室だよりの名前を「絆」としています。校長室だよりは、前任校から通算すると第９２号になるのですが、ずっとこの名前を使っています。しかし、松江東高校に着任してから、その意味を何ら説明せずにいたように思います。

名付けのきっかけは、前任校でいただいた地域の方からのお手紙です。そのお手紙は、高校生の活動に対するお褒めと応援の言葉で綴られおり、「絆」と書かれた書も同封されていました。その書をそのまま題字に使っています。高校と地域、そして地域住民であるご自身との「絆」を感じて書いたとのことでした。ちょうどその頃の校長講話で、学校は「夢と絆」を育むところであると話をしたところだったこともあり、この名前にしました。

式辞で「夢と絆」の話をしたのは、北朝鮮による拉致被害者である蓮池薫(はすいけかおる)さんの講演会が心に残ったからでした。講演タイトルも「夢と絆」でした。蓮池さんは、1978年、大学の夏休みで地元新潟県に帰省していた時、のちに妻となる祐木子（ゆきこ）さんとともに海岸で北朝鮮の工作員に連れ去られ、帰国までの24年間軟禁生活を余儀なくされた拉致被害者です。

蓮池さんは、「拉致により奪われたのが夢と絆。弁護士になる夢、家族や友人などとの絆、それが奪われると生きる力が湧かなくなった」と話されました。だからこそ、「今ある夢と絆を大切にしてもらいたい」とのメッセージは心に残りました。

「絆」と聞くと、私は「結（ゆい）」を連想します。高校日本史の近世農業でも出てきます。結とは、例えば、田植えのように短期集中的に労働力を必要とするような作業で人手がたくさん欲しい時に、複数の農家が労働力を出し合い、それぞれの家の田植えを順番に行っていくというものです。いわゆる「お手伝い」は、一方的で片務的なものなので、助け合いの「結」とは違います。

ちなみに、沖縄にはJRがありませんが、ゆいレールというモノレールがあります。沖縄の方言である「ゆいまーる」が語源となっています。「ゆい（結い）」と「まーる（廻る）」という言葉が合わさった言葉です。田植えの共同作業を家ごとに順番に行うことと同じ意味になります。

つまり、「ゆい」はみんなとの結びつき、「まーる」は廻る順序があるという意味になります。「ゆいまーる」という言葉のなかには、「恩を廻していく」「恩を次々送っていく」ことに加え、「みんなとおなじように分かちあう」ことや「お互いさま」といった意味が含まれているのです。

地域でのボランティアなどは、一見「手伝い」のようにも見えますが、「結」・「ゆいまーる」が本質にあると思います。人とのつながりにより成り立っているからです。「絆」が根底にあります。

「ゆいまーる」や「助け合い」は、それぞれの自立があってはじめて成り立つものです。甘えで助けてもらうのとは違います。自立とは、何でも自分一人でできるようになることではありません。できることを少しでも増やしつつ、できないことは助けを求めることができること。助け合いや支援、援助の気持ちが豊かであること。それは特別支援教育の観点も同じだと思っています。

松江東高校のグランドデザインでは、自立への道程が合言葉になっています。これに、「小さな挑戦、小さな気遣い、大きな志」という合言葉を添えています。小さな気遣いが学校にあふれることこそ、「ゆいまーる」であり、それも自立への道程につながります。校長室だよりのタイトルを「絆」にした意味の一つをわかってもらえれば幸いです。